

デジタルアート(電子黒板)

教科・場面

図工

授業・実践のねらい

- ・電子黒板に大きな動きで触れて描く(自分の手・持った補助具)
- ・描画を楽しむ。

対象の児童・生徒

- ・小学部5年生、6年生

教材・教具

- ・電子黒板(2台使用した)
- ・iPad

工夫したところ

- ・ペンは伸縮棒につけたり、長さを色々準備したりして、画面に届きやすいものを選ぶようにした。
- ・訪問生にはiPadの写真編集を使い、同じ画像に描画した。
- ・一つ目の作品は全員同じカボチャで個性を感じられるように設定した。二つ目は自分の顔で、親しみやすい題材として設定した。

授業展開・教材の使い方・実践の内容

①電子黒板に映したカボチャの画像に、長い棒にタッチペンをつけたものや、ペンを持って、手で直接など、個々の実態に合わせた方法で描画活動を行った。



②自分の顔写真を電子黒板に映し出し、そこに描画した。

※どちらの授業でも、最後に友だちの作品を見合い、感想を聞いた。画面共有で一つのiPadに集めておくことで、振り返りがすぐに行える。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・手を動かせる児童は、大きく手を動かして描画していた。
- ・カラーチャートから、いろいろな色を選ぶ児童がいたり、同じ色で沢山の線を描く児童がいたり、思い思いの線を描いていた。カラーチャートも代表色が一覧で見ることができ、選びやすいようだった。
- ・手のひらで押ししてしまうと消しゴムモードになるが、線がすぐ消えるのも楽しんでた。
- ・画面が大いので友だちの描く様子が見やすく、描いている過程も見合うことができた。
- ・友だちの顔は描いている様子を見るのも楽しく見学することができた。(カボチャの時は待ち時間に制作活動を設定していた)
- ・画面共有(QRコード)で同じ画像を、iOS、アンドロイド等それぞれの端末に送ることもできるので、完成した画像を共有しやすい。